テーマ12　標準原価計算（Ⅰ）

［テーマ10］までは、製品を生産するのに実際にいくらかかったかという実際原価の計算（これを「実際原価計算」といいます。）を学習してきました。

これに対して、［テーマ12］では、あらかじめ目標となる原価（これを「標準原価」といいます。）を定め、その標準原価によって製品原価を計算する方法（これを、「標準原価計算」といいます。）について学習します。

12－1　標準原価計算とは

（1）標準原価計算とは

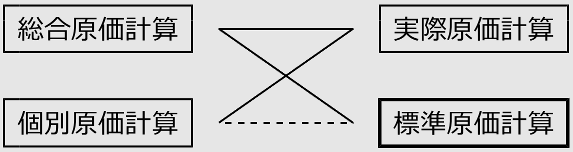
標準原価計算とは、実際にかかった原価ではなく、あらかじめ目標として定めた標準原価によって製品原価（完成品原価、月末仕掛品原価）を計算する方法です。

なお、これまでに学習した予定価格（材料の予定消費価格、賃金の予定賃率、製造間接費の予定配賦率）を用いた製品原価の計算は、実際の消費数量、作業時間および操業度によって製品原価を計算するものであり、実際原価計算に分類されます。標準原価計算は、価格だけでなく、数量についても、あらかじめ目標を設定します。

（2）標準原価計算の位置付け

標準原価計算の位置付けは、以下のとおりです。原価計算には個別原価計算と総合原価計算がありますが、標準原価計算は主に総合原価計算で用いられます。そのため、２級では、総合原価計算における標準原価計算について学習します。

<標準原価計算の位置付け>



（３）標準原価計算の目的

① 原価管理（げんかかんり）

原価管理とは、原価の無駄や製造の不効率を見つけて、より安く製品を製造できるように原価を削減することをいいます。

実際原価計算では、製品原価の中に、無駄や不効率が入り込んでいても、原価管理にはあまり役立ちません。

そこで、標準原価計算により、あらかじめ標準原価を定め、実際原価との差異を把握・分析することで、原価管理に役立てることができます。

標準原価 ＝ 標準価格 × 標準消費数量

（価格面の差異）　（数量面の差異）

実際原価 ＝ 実際価格 × 実際消費数量

Point!　標準原価計算では、価格だけでなく、数量の差異分析をすることで、原価管理（無駄や不効率の排除）に役立てることができます。

② 計算の迅速化（じんそくか）

実際原価の計算には時間と手間がかかりますが、標準原価計算では、あらかじめ設定された標準原価によって製品原価を計算するため、製品原価を迅速に計算することができます。

（４）標準原価計算の手続

標準原価計算は、以下の①～⑤のプロセスで行います。

①　原価標準の設定（会計年度はじめ）

会計年度はじめに製品１個あたりの標準原価（これを「原価標準」といいます。）を設定します。詳しくは［12－２］で学習します。

②　標準原価の計算（各原価計算期間）

標準原価で、完成品原価、月末仕掛品原価、月初仕掛品原価を計算します。詳しくは［12－２］で学習します。

③　実際原価の計算（各原価計算期末）

原価計算期末ごと（つまり、１ヶ月ごと）に、実際原価を計算します。

④　標準原価差異の計算・分析（各原価計算期末）

原価計算期末ごと（つまり、１ヶ月ごと）に、標準原価と実際原価の差異（これを「標準原価差異（ひようじゆんげんかさい）」といいます。）を計算し、その原因を分析します。詳しくは［12－3]、［12－４］で学習します。

⑤　標準原価差異の会計処理（会計年度末）

会計年度末に、標準原価差異を１年分集計し、原則として売上原価に賦課します。

Point!	**原則として売上原価に賦課するのは、材料消費価格差異、賃率差異、製造間接費配賦差異と同様です。**

12－2　標準原価の計算

（1）原価標準の設定

標準原価計算では、会計年度はじめに「原価標準」を設定します。

原価標準とは、製品１個あたりの標準原価をいいます。通常、原価標準は、直接材料費、直接労務費、製造間接費についてそれぞれ設定され、標準原価カードにまとめられます。

標準直接材料費 ＝ 標 準 価 格 × 製品１個あたりの標準消費量
標準直接労務費 ＝ 標 準 賃 率 × 製品１個あたりの標準作業時間
標準製造間接費 ＝ 標準配賦率 × 製品１個あたりの標準操業度

標準原価カードは、例えば、以下のように作成します。

標準原価カード

	標準価格		標準消費量		
標準直接材料費	30円/kg	×	8kg/個	＝	240円/個
	標準賃率		標準直接作業時間		
標準直接労務費	40円/時	×	4時間/個	＝	160円/個
	標準配賦率		標準直接作業時間		
標準製造間接費	50円/時	×	4時間/個	＝	200円/個
標準原価					600円/個

Point! **標準原価計算では、通常、加工費を、直接労務費と製造間接費に分けて計算します。なお、直接経費は、外注加工賃や特許権使用料など費目が限られているので出題されません。**

（２）標準原価の計算

標準原価計算では、各原価計算期間において、完成品原価、月末仕掛品原価を標準原価で計算します。

① 完成品原価

原価標準（製品１個あたりの標準原価）に完成品数量を乗じて計算します。

> 完成品原価 ＝ 原価標準（製品１個あたりの標準原価） × 完成品数量

② 月末仕掛品原価

直接材料費と加工費に分けて計算し、それらを合算します。

直接材料費	：	標準直接材料費 × 月末仕掛品数量		合算
加　工　費	：	標準直接労務費 × 月末仕掛品の完成品換算量		
		標準製造間接費 × 月末仕掛品の完成品換算量		

例題12-1 **標準原価の計算**

次の資料にもとづいて、標準原価によって完成品原価、月末仕掛品原価および月初仕掛品原価を計算しなさい。

<資料>

1．　製品１個あたりの標準原価

	標準価格		標準消費量		
標準直接材料費	20円/kg	×	6kg/個	=	120円/個
	標準賃率		標準直接作業時間		
標準直接労務費	30円/時	×	5時間/個	=	150円/個
	標準配賦率		標準直接作業時間		
標準製造間接費	40円/時	×	5時間/個	=	200円/個
製品１個あたりの標準原価					470円/個

2．当月の生産データ

月初仕掛品	40個（80%）	
当 月 投 入	220個	
合　計	260個	
月末仕掛品	60個（40%）	
完　成　品	200個	

（注）（　）内は加工費の進捗度を示している。また、材料はすべて工程の始点で投入している。

<解答・解説>

（1）　完成品原価

470円/個 × 200個 ＝ 94,000円

（2）　月末仕掛品原価

月末仕掛品の完成品換算量 ＝ 60個 × 40% ＝ 24個

直接材料費 ： 120円/個 × 60個 ＝ 7,200円

直接労務費 ： 150円/個 × 24個 ＝ 3,600円

製造間接費 ： 200円/個 × 24個 ＝ 4,800円

合　計　15,600円

（3）　月初仕掛品原価

月初仕掛品の完成品換算量 ＝ 40個 × 80% ＝ 32個

直接材料費 ： 120円/個 × 40個 ＝ 4,800円

直接労務費 ： 150円/個 × 32個 ＝ 4,800円

製造間接費 ： 200円/個 × 32個 ＝ 6,400円

合　計　16,000円

12－３　標準原価差異の計算

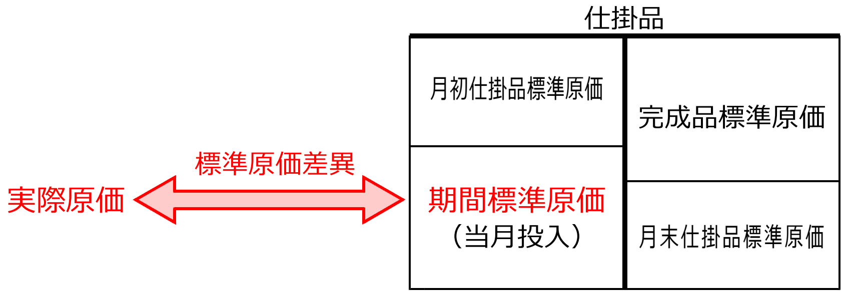
標準原価計算では、原価計算期末ごと（つまり、１ヶ月ごと）に、標準原価と実際原価の差異（標準原価差異）を計算・分析することで原価管理に役立てます。

（１）当月投入に対する標準原価（期間標準原価）

標準原価差異を計算する際、実際原価と比較する標準原価は、完成品原価や仕掛品原価ではなく、当月投入に対する標準原価（これを「期間標準原価（きかんひょうじゅんげんか）」といいます。）です。なぜなら、実際原価は当期投入分に対して発生した原価だからです。

期間標準原価は、次のように計算します。

期間標準原価　＝　完成品標準原価　－　月初仕掛品標準原価　＋　月末仕掛品標準原価



（２）標準原価差異の計算

標準原価と実際発生額との差異を「標準原価差異」といいます。

原価標準は、直接材料費、直接労務費、製造間接費についてそれぞれ設定されます。そのため、標準原価差異は、以下のように直接材料費差異、直接労務費差異、製造間接費差異としてそれぞれ計算されます。

直接材料費差異　＝　標準直接材料費（期間標準原価）　－　実際直接材料費
直接労務費差異　＝　標準直接労務費（期間標準原価）　－　実際直接労務費
製造間接費差異　＝　標準製造間接費（期間標準原価）　－　実際製造間接費

標準原価差異のうち、「期間標準原価 ＞ 実際発生額」となる場合は「有利差異」といい、「期間標準原価 ＜ 実際発生額」となる場合は「不利差異」といいます。

Point! **かならず期間標準原価から実際発生額を引いて計算します。**
計算結果がプラスならば有利差異、マイナスならば不利差異です。

Point! **有利差異、不利差異は、経営に与える影響から覚えます。**
原価が、標準原価（目標）よりも増えれば「不利」、逆に、標準原価（目標）よりも減れば「有利」です。

例題12-２　**標準原価差異の計算**

次の資料にもとづいて、直接材料費差異、直接労務費差異、製造間接費差異を求めなさい。

<資料>

１．　製品１個あたりの標準原価

	標準価格		標準消費量	
標準直接材料費	20円/kg	×	6kg/個	= 120円/個
	標準賃率		標準直接作業時間	
標準直接労務費	30円/時	×	5時間/個	= 150円/個
	標準配賦率		標準直接作業時間	
標準製造間接費	40円/時	×	5時間/個	= 200円/個
製品１個あたりの標準原価				470円/個

２．当月の生産データ

月初仕掛品	40個（80%）	
当 月 投 入	220個	
合　計	260個	
月末仕掛品	60個（40%）	
完　成　品	200個	

（注）（　　）内は加工費の進捗度を示している。また、材料はすべて工程の始点で投入している。

３．当月の実際発生額

直接材料費　27,000円

直接労務費　30,000円

製造間接費　36,000円

＜解答・解説＞

（1）　直接材料費差異

期間標準原価　＝　120円/個　×　220個　＝26,400円

直接材料費差異　＝　期間標準原価26,400円　－　実際原価27,000円

＝　△600円（不利差異）

仕掛品－直接材料費

月初　40個 4,800円	完成品　200個 24,000円
当月　220個 **26,400円**	
	月末　60個 7,200円

実際原価**27,000円** ⇔ **26,400円**

直接材料費差異

600円（不利差異）

（2）　直接労務費差異

①　完成品換算量の計算

月末仕掛品の完成品換算量　＝　60個　×　40%　＝　24個

月初仕掛品の完成品換算量　＝　40個　×　80%　＝　32個

当月投入の完成品換算量　＝　完成品200個　－　月初仕掛品の完成品換算量32個　＋　月末仕掛品の完成品換算量24個

＝　192個

②　期間標準原価の計算

期間標準原価　＝　150円/個　×　192個　＝　28,800円

③　直接労務費差異の計算

直接労務費差異　＝　期間標準原価28,800円　－　実際原価30,000円

＝　△1,200円（不利差異）

仕掛品－直接労務費

月初　32個 4,800円	完成品　200個 30,000円
当月　192個 **28,800円**	
	月末　24個 3,600円

実際原価**30,000円** ⇔ **28,800円**

直接労務費差異

1,200円（不利差異）

（3）　製造間接費差異

①　完成品換算量の計算

月末仕掛品の完成品換算量　＝　60個　×　40％　＝　24個

月初仕掛品の完成品換算量　＝　40個　×　80％　＝　32個

当月投入の完成品換算量　＝　完成品200個　－　月初仕掛品の完成品換算量32個　＋　月末仕掛品の完成品換算量24個

＝　192個

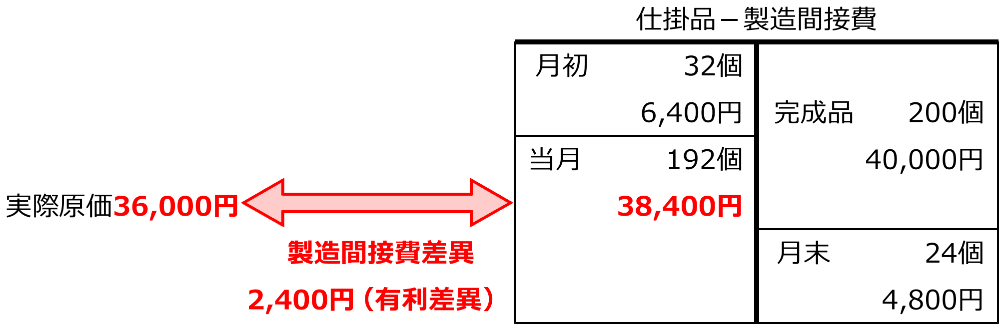
②　期間標準原価の計算

期間標準原価　＝　200円/個　×　192個　＝　38,400円

③　製造間接費差異の計算

製造間接費差異　＝　期間標準原価38,400円　－　実際原価36,000円

＝　2,400円（有利差異）



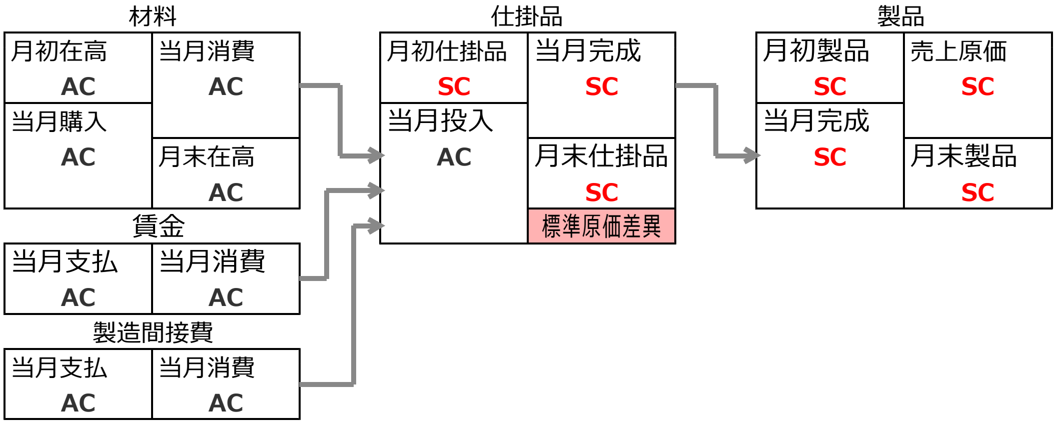
12－4　標準原価計算の勘定記入法

標準原価計算の勘定記入法には、①パーシャル・プランと、②シングル・プランの２つの方法があります。なお、説明の便宜上、以下では次のとおり表記します。

AC：実際原価（Actual Cost）　　SC：標準原価（Standard Cost）

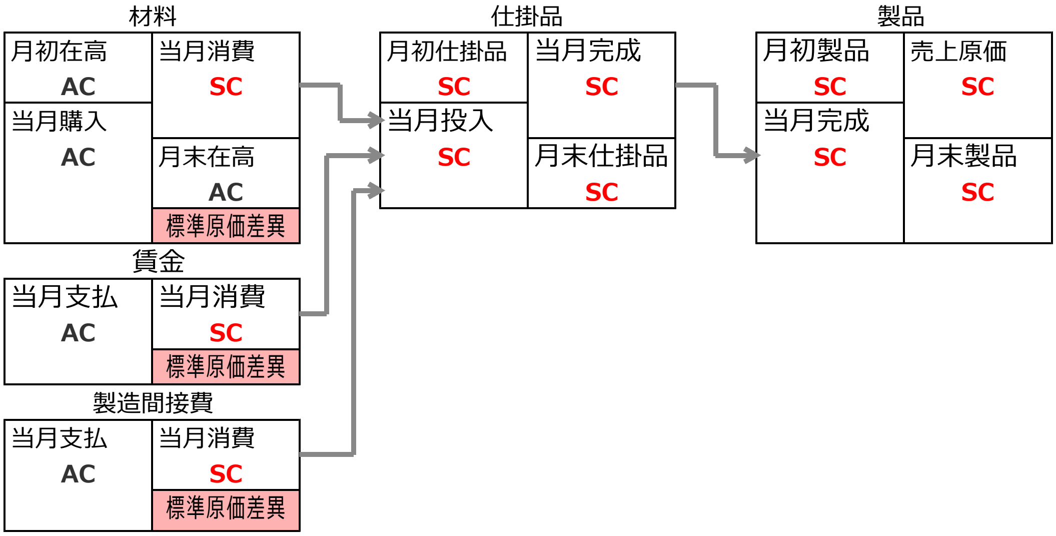
（1）パーシャル・プラン

パーシャル・プランとは、仕掛品勘定の当月投入を実際原価（AC)で記入する方法です。標準原価差異は、仕掛品勘定で把握されます。



（2）シングル・プラン

シングル・プランとは、仕掛品勘定の当月投入を標準原価（SC)で記入する方法です。SC差異は、材料勘定、賃金勘定等で把握されます。



例題12-3　**標準原価計算の勘定記入法（パーシャル・プラン）**

次の資料にもとづいて、パーシャル・プランにより仕掛品勘定を完成させなさい。

<資料>

1．　製品１個あたりの標準原価

	標準価格		標準消費量	
標準直接材料費	20円/kg	×	6kg/個	= 120円/個
	標準賃率		標準直接作業時間	
標準直接労務費	30円/時	×	5時間/個	= 150円/個
	標準配賦率		標準直接作業時間	
標準製造間接費	40円/時	×	5時間/個	= 200円/個
製品１個あたりの標準原価				470円/個

2．当月の生産データ

月初仕掛品	40個（80%）	
当 月 投 入	220個	
合　計	260個	
月末仕掛品	60個（40%）	
完　成　品	200個	

（注）（　　）内は加工費の進捗度を示している。また、材料はすべて工程の始点で投入している。

3．当月の実際発生額

直接材料費　27,000円

直接労務費　32,000円

製造間接費　38,000円

＜解答・解説＞

（1）　月初仕掛品原価（標準原価）

月初仕掛品の完成品換算量 ＝ 40個 × 80% ＝ 32個

直接材料費	：	120円/個	×	40個	＝	4,800円
直接労務費	：	150円/個	×	32個	＝	4,800円
製造間接費	：	200円/個	×	32個	＝	6,400円
合　計						16,000円

（2）　完成品原価（標準原価）

470円/個 × 200個 ＝ 94,000円

（3）　月末仕掛品原価（標準原価）

月末仕掛品の完成品換算量 ＝ 60個 × 40% ＝ 24個

直接材料費	：	120円/個	×	60個	＝	7,200円
直接労務費	：	150円/個	×	24個	＝	3,600円
製造間接費	：	200円/個	×	24個	＝	4,800円
合　計						15,600円

（4）　仕掛品勘定（パーシャル・プラン）

仕掛品

標準原価→	前月繰越	16,000	製　品	94,000	←標準原価
実際原価→	材　料	27,000	次月繰越	15,600	←標準原価
実際原価→	賃　金	32,000	標準原価差異	3,400	←（差額）
実際原価→	製造間接費	38,000			
		113,000		113,000	

例題12-4　**標準原価計算の勘定記入法（シングル・プラン）**

次の資料にもとづいて、シングル・プランにより、材料勘定、賃金勘定、製造間接費勘定、仕掛品勘定を完成させなさい。

<資料>

1.　製品１個あたりの標準原価

標準直接材料費	標準価格 20円/kg	×	標準消費量 6kg/個	= 120円/個
標準直接労務費	標準賃率 30円/時	×	標準直接作業時間 5時間/個	= 150円/個
標準製造間接費	標準配賦率 40円/時	×	標準直接作業時間 5時間/個	= 200円/個
製品１個あたりの標準原価				470円/個

2.　当月の生産データ

月初仕掛品	40個（80%）	
当 月 投 入	220個	
合　計	260個	
月末仕掛品	60個（40%）	
完　成　品	200個	

（注）（　　）内は加工費の進捗度を示している。また、材料はすべて工程の始点で投入している。

3.　当月の実際発生額

直接材料費　27,000円

直接労務費　32,000円

製造間接費　38,000円

＜解答・解説＞

（1）標準原価の計算

①　直接材料費

月初仕掛品原価　＝　120円/個　×　40個　＝　4,800円

完 成 品 原 価　＝　120円/個　×　200個　＝　24,000円

月末仕掛品原価　＝　120円/個　×　60個　＝　7,200円

期 間 標 準 原 価　＝　120円/個　×　220個　＝26,400円

仕掛品－直接材料費

月初	40個 4,800円	完成品	200個 24,000円
当月	220個 **26,400円**		
		月末	60個 7,200円

②　直接労務費

1）完成品換算量の計算

月末仕掛品の完成品換算量　＝　60個　×　40%　＝　24個

月初仕掛品の完成品換算量　＝　40個　×　80%　＝　32個

当月投入の完成品換算量　＝　完成品200個　－　月初仕掛品の完成品換算量32個　＋　月末仕掛品の完成品換算量24個

＝　192個

2）標準原価の計算

月初仕掛品原価　＝　150円/個　×　32個　＝　4,800円

完 成 品 原 価　＝　150円/個　×　200個　＝　30,000円

月末仕掛品原価　＝　150円/個　×　24個　＝　3,600円

期 間 標 準 原 価　＝　150円/個　×　192個　＝　28,800円

仕掛品－直接労務費

月初	32個 4,800円	完成品	200個 30,000円
当月	192個 **28,800円**		
		月末	24個 3,600円

③　製造間接費

1）完成品換算量の計算　（直接労務費と同じため、省略）

2）標準原価の計算

月初仕掛品原価 ＝ 200円/個 × 32個 ＝ 6,400円

完 成 品 原 価 ＝ 200円/個 × 200個 ＝ 40,000円

月末仕掛品原価 ＝ 200円/個 × 24個 ＝ 4,800円

期 間 標 準 原 価 ＝ 200円/個 × 192個 ＝ 38,400円

仕掛品－製造間接費

月初	32個 6,400円	完成品	200個 40,000円
当月	192個 **38,400円**	月末	24個 4,800円

(2) 完成品原価、月初仕掛品原価、月末仕掛品原価の計算

①　月初仕掛品原価（標準原価）

直接材料費4,800円 ＋ 直接労務費4,800円 ＋ 製造間接費6,400円 ＝ 16,000円

②　完成品原価（標準原価）

470円/個 × 200個 ＝ 94,000円

または、

直接材料費24,000円 ＋ 直接労務費30,000円 ＋ 製造間接費40,000円 ＝ 94,000円

③　月末仕掛品原価（標準原価）

直接材料費7,200円 ＋ 直接労務費3,600円 ＋ 製造間接費4,800円 ＝ 15,600円

（3）勘定記入（シングル・プラン）

材料

実際原価→	買 掛 金	27,000	仕 掛 品	26,400	←標準原価
			標準原価差異	600	←（差額）
		27,000		27,000	

賃金

実際原価→	諸　　口	32,000	仕 掛 品	28,800	←標準原価
			標準原価差異	3,200	←（差額）
		32,000		32,000	

製造間接費

実際原価→	諸　　口	38,000	仕 掛 品	38,400	←標準原価
（差額）→	標準原価差異	400			
		38,400		38,400	

仕掛品

標準原価→	前月繰越	16,000	製　　品	94,000	←標準原価
標準原価→	材　　料	26,400	次月繰越	15,600	←標準原価
標準原価→	賃　　金	28,800			
標準原価→	製造間接費	38,400			
		109,600		109,600	

テーマ12　標準原価計算（Ⅰ）　問題

問題12　次の資料にもとづき、仕掛品勘定の（　）に適当な金額を記入しなさい。なお、仕掛品勘定はパーシャル・プランで記帳する。

<資料>

1．製品１個あたりの標準原価

	標準価格		標準消費量	
標準直接材料費	300円/kg	×	2kg/個	= 600円/個
	標準賃率		標準直接作業時間	
標準直接労務費	900円/時	×	0.5時間/個	= 450円/個
	標準配賦率		標準直接作業時間	
標準製造間接費	1,000円/時	×	0.5時間/個	= 500円/個
製品１個あたりの標準原価				1,550円/個

2．当月の生産データ

月初仕掛品	300個	(1/3)
当 月 投 入	4,700個	
合　計	5,000個	
月末仕掛品	600個	(1/4)
完　成　品	4,400個	

（注）(　　) 内は加工費の進捗度を示している。また、材料はすべて工程の始点で投入している。

3．当月の実際発生額

直接材料費　2,840,000円

直接労務費　2,100,000円

製造間接費　2,200,000円

テーマ12　標準原価計算（Ｉ）　答案用紙

問題12

仕　掛　品　（単位：円）

前月繰越	(　　　)	製品	(　　　)
材料	(　　　)	直接材料費差異	(　　　)
賃金	(　　　)	直接労務費差異	(　　　)
製造間接費	(　　　)	次月繰越	(　　　)
製造間接費差異	(　　　)		
	(　　　)		(　　　)

テーマ12　標準原価計算（Ⅰ）　解答解説

問題12　**解答**

仕　掛　品　　　　（単位：円）

前月繰越	275,000	製品	6,820,000
材料	2,840,000	直接材料費差異	20,000
賃金	2,100,000	直接労務費差異	97,500
製造間接費	2,200,000	次月繰越	502,500
製造間接費差異	25,000		
	7,440,000		7,440,000

問題12　**解説**

（1）　月初仕掛品原価

月初仕掛品の完成品換算量　＝　300個　×　1/3　＝　100個

直接材料費	600円/個　×　300個　＝	180,000円
直接労務費	450円/個　×　100個　＝	45,000円
製造間接費	500円/個　×　100個　＝	50,000円
合　計		275,000円

（2）　完成品原価

1,550円/個　×　4,400個　＝　6,820,000円

（3）　月末仕掛品原価

月末仕掛品の完成品換算量　＝　600個　×　1/4　＝　150個

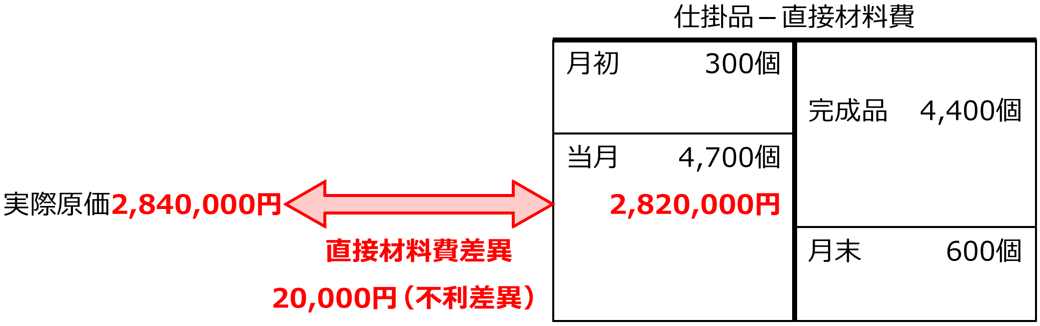
直接材料費	600円/個　×　600個　＝	360,000円
直接労務費	450円/個　×　150個　＝	67,500円
製造間接費	500円/個　×　150個　＝	75,000円
合　計		502,500円

（4）　直接材料費差異

期 間 標 準 原 価　＝　600円/個　×　4,700個　＝2,820,000円

直接材料費差異　＝　期間標準原価2,820,000円　－　実際原価2,840,000円

＝　△20,000円（不利差異）



(5)　直接労務費差異

①　完成品換算量の計算

当月投入の完成品換算量　=　完成品4,400個　−　月初仕掛品の完成品換算量100個　+　月末仕掛品の完成品換算量150個

=　4,450個

②　期間標準原価の計算

期間標準原価　=　450円/個　×　4,450個　=　2,002,500円

③　直接労務費差異の計算

直接労務費差異　=　期間標準原価2,002,500円　−　実際原価2,100,000円

=　△97,500円（不利差異）

仕掛品－直接労務費

月初　100個	完成品　4,400個
当月　4,450個 **2,002,500円**	
	月末　150個

実際原価**2,100,000円** ⇔ **2,002,500円**

直接労務費差異

97,500円（不利差異）

(6)　製造間接費差異

①　完成品換算量の計算

4,450個（(5)と同じ）

②　期間標準原価の計算

期間標準原価　=　500円/個　×　4,450個　=　2,225,000円

③　製造間接費差異の計算

製造間接費差異　=　期間標準原価2,225,000円　−　実際原価2,200,000円

=　25,000円（有利差異）

仕掛品－製造間接費

月初　100個	完成品　4,400個
当月　4,450個 **2,225,000円**	
	月末　150個

実際原価**2,200,000円** ⇔ **2,225,000円**

製造間接費差異

25,000円（有利差異）